

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

# 無碍の一道 第81号

発行:2021年12月24日  
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺  
〒739-0147 副住職 天野英昭  
東広島市八本松西6丁目10番1号  
☎・FAX 082-428-1360

## 御正忌(おたんや)法座

日時 1月26日(水)



ご講師 朝枝 暁範 師(北広島町 本立寺住職)

朝席 9時~11時頃

昼席 13時~15時頃

## 第113回 歎異抄輪読会のご案内

日時 1月20日(木) 14:00~15:30頃

場所 天龍寺本堂

講師 松田 正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です



## 天龍寺報恩講・永代経法座のお礼

先般、11月16日(火)に当山に置きまして報恩講・永代経法座を執り行う事が出来ました。昨年同様、コロナ禍の中で、大変な時期にもかかわらず多数の方々のご参詣をいただきましたこと書面をお借り申し上げ感謝申し上げます。また、天龍寺総代様、天龍寺仏教壮年会のみな様には、ご多忙の中お手伝い・ご協力・ご尽力等を賜りましたこと厚くお礼を申し上げます。

## 無常を観ずるは菩提心の一なりⅡ

少し話はそれますが、昔は「長寿」の言葉のごとく、戦争・飢饉・疫病等により、人は長くこの世に生きていくことが出来なかったために、長く生きていくことが、喜ばれたとこの点もご指南をいただいたことがありました。

しかし、昨今、長寿社会を迎え、長く生きることが、そのまま人間の幸せにつながるという考え方も昔とは、少し変化しているのだとも、そのお話をいただいた際に、ご指南いただいたことでもあります。(決して長寿を否定しているわけではありません。)

どちらにせよ教え子の人生を含め、どのような人生を選択しても「難度海」を泳いでいかななくてはならない存在だということです。

親鸞聖人の著された『顕浄土真実教行証文類の序』に「難度海を度する大船」とお示しくださっています。ただ、この「大船」に乗っているつもりでいても、乗っていない自分にも気づかれます。

今年の夏も多くの子の蝉の声を聴きました。みなさまもご存じの通り、蝉が地上で生きている期間は、一週間前後であると教員時代、同僚から聞いたことがあります。人間の価値観から考えますに5日、7日、10日とそれ程違いはないかと考えることもあります。それと同様に無量寿(仏様)の価値観からしますと人間の寿命もあまり違いがないとお聞きしたことがあります。

さらに人間が、明日・将来のことを色々と思案するのは、「まだまだ自分の生命は、大丈夫だ。」という前提に立っているからだのご指南をいただいたこともあります。

一方で生きていけば、何をしなくても腹が減り、食事をとらなくてはなりません。そのためにはお金が必要となります。そのお金を得るために働かなくてはなりません。働くためには、健康が必要となってきます。ただ、この点も偉そうなことは申せませんが、自分の生命も含め、永遠はありません。

『大無量寿経』というお経の中に、「独生独死独去独来」という言葉があります。意味は、「人間は、生まれてくるのも独り、死ぬのも独り」です。当たり前のことですが、日々大切にしている財産・家族等もこの境涯に残していかなくてはなりません。

高飛車な言い方ですが、人類は、「これがあれば幸せになれる。あれがあれば幸せになれる。」と願う科学技術・医療技術等を発達・発展させ、現在があると思います。

謙遜ではなく、私も含めどれだけの人が、日々幸福感を感じながら生きていらっしゃるのかとも考えることがあります。

少し話はそれますが、先般マイクロソフトを創設されたビルゲイツ氏のツイッターが話題になっておりました、内容は、昨年いろいろな理由から長年付き添われた奥様と別れ、お嬢さま方も大学生(?)になり、家を出られたそうです。「昨年ほど、孤独感を感じた一年はない。」と言われていました。資産約15兆円を持ってしても、はたから見れば幸せそうに思えても、残念ながらその人の立場に立って考えますに、やはりこの境涯は「娑婆」の人生を歩まなくてはならないのだと思ったことです。

度々耳にしてきましたが、人間には、欲があり続ける限り、「これで良い。」ということは無いと思います。欲が悪いわけでもなく、欲を捨てきれぬ存在でもないために欲を抱えたまま、幸せを求めるとはならず、日々の生活の中で、少しでも幸せを感じとれる生き方ができればということです。

この厳しい現実の人生を生きていくことは、容易なことではありません。生きていく上で「何をより所に、何を頼り」にして、生きていかななくてはならないのか、昨今の自然災害、コロナ等を鑑み、今一度考える時代に入っているのかと思う今日この頃です。